

成果報告書

地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業

団体名	当別まちづくり株式会社		
所在地	北海道石狩郡当別町末広380番地	設立年	2017年
運営主体	当別まちづくり株式会社		
事業目標	本事業は、当別町の商店街を拠点にアートによる地域活性化活動に取り組んでいる当別まちづくり株式会社を中心となり、令和4年4月に新たに開校した一体型義務教育学校である当別町立とうべつ学園及び当別町教育委員会(学校運営協議会、地域学校協働本部含む)のほか、当別町商工会、当別町料飲店組合等の地域事業者、当別町文化協会等の地域団体及び地域住民、当別町及び近隣で活動するアーティストと連携して、学校における教職員の働き方改革を踏まえ、児童生徒に身近な商店街を活用し学校の部活動に代わり得る継続的で質の高い多様な文化芸術活動の機会を確保するため、モデル事業として実施検証及び普及を目的として実施した。		
きっかけ	当別まちづくり株式会社では、当別町本町地区の商店街活性化の一環として、空き店舗をアトリエに転換して、アーティストインレジデンス事業を行ってきた。これにより新たに2名のアーティストが町内に移住し活動を始めたほか、町内外のアーティストとのネットワークを形成することができたため、これを活かして、当別町の子どもたちに良質なアート体験を提供したいと考え、本事業の検討をはじめた。		
団体・組織等の連携	当別まちづくり会社が事務局となり、下記の運営体制で事業を実施した。特に、実施場所であるとうべつ学園とは、緊密な連携を図ることができた。		
活動場所	当別町立とうべつ学園美術室		
活動概要	より多くの生徒が参加できるようにとの学校の配慮により、美術部が通常活動で使用しているとうべつ学園美術室を活動場所とすることとなった。 美術部は水曜日を除く毎平日に活動しており、常時15名前後が活動に参加している。本事業では、4組のアーティストが計22回訪問し、部活動の支援を行った。また、町内3か所で作品展示を実施したほか、3月11日に実施される第1回とうべつ学園卒業式において、学校内に作品展示を行うほか、来年度の入学式においても本事業で生徒たちが制作した作品が展示された。		

○本事業による成果

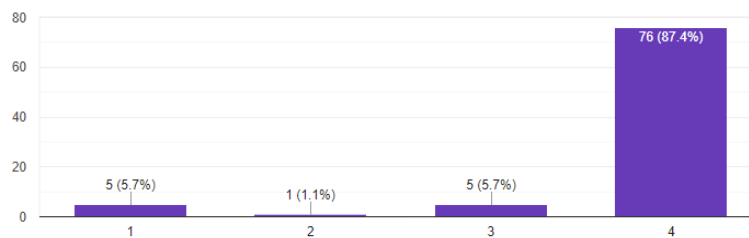
・参加した生徒は8年生(中学2年)が42.5%、7年生(中学1年)が42.5%で、5年生6年生も参加がみられた。これは、とうべつ学園では5年生以上が部活動にさんかできるためである。また9年生(中学3年)はすでに引退済みである。

・4段階評価で感想を求めたところ、87.4%が4点をつけており、生徒の評価はきわめて高い。

今日の感想を選択してください。

 コピー

87 件の回答



・とうべつ学園では、美術専科教員がおらず、美術部は地理教諭が指導している。このため、アーティストによる支援を歓迎し、極めて高い評価をいただいた。

・学校管理職からも評価が高く、特に教頭とは常時情報交換を行い、顧問教諭に負担をかけない運営を行うことができた。

○児童・生徒への指導に関する工夫

・アーティストとともに常にまちづくり会社のサポートスタッフが入り、運営サポートを行った。顧問教諭等との連絡調整もまちづくり会社が行った。

・これによりアーティストが生徒対応に集中することができた。学校での指導経験がないアーティストでも、周辺業務をサポートすることで、スムーズな運営が行えた。

・当初不安感を訴えていたアーティストについては、まちづくり会社スタッフと2名体制(対談形式)でオリエンテーションを行うことで、スムーズな導入を行うことができた。

・美術部では、生徒が常時自主的に制作活動を行っている。本事業によって生徒の自主的な制作時間が奪われた側面があることから、来年度の課題として、顧問教諭・教頭とも共有している。

○運営上の工夫

・当月の予定は、前月中旬までにアーティストからスケジュール予定を聴取し、まちづくり会社が顧問教諭、教頭と調整を行い、美術部の月間スケジュールに組み込む形で前月末までに生徒に配布した。

・学校との連絡調整は原則としてまちづくり会社で行い、顧問教諭、アーティスト双方に負担がかからない運営を行った。

・毎回googleフォームでアンケートを行ったほか、顧問教諭・教頭と常時情報交換を行い、随時実施方法の見直しを行った。

○継続的な運営に関する課題・展望

- ・本年度は9月末の文化祭に向けた作品制作がすでにはじまっていたことから、その制作に影響を与えないよう10月から本格的にスタートさせた。10月～2月までの事業費で約160万円がかかっており、財源確保が最大の課題である。
- ・教員の負担軽減につなげるためには、アーティストと学校の連絡調整をスムーズに行うことが緊要であり、コーディネーターが必須である。
- ・学校との日程調整にあたっては、学校側に希望日を確認するのではなく、事前に入手した学校暦をもとに事務局で候補日を作成し、その可否を尋ねる形式が望ましい。教員の負担が少ないため。

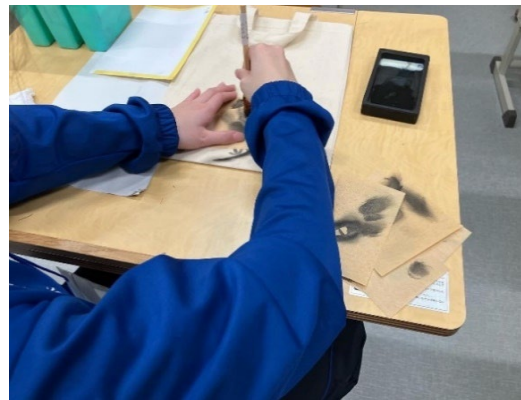
○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・提案

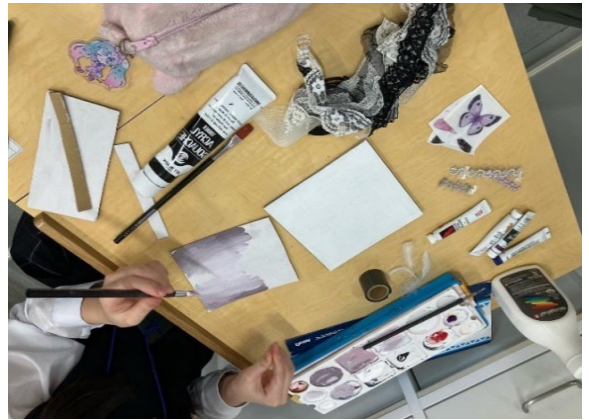
- ・令和5年度についてはまちづくり会社の独自事業として、年間4組のアーティスト派遣を継続して実施する。
- ・当別町では、運動部の地域移行に向けたモデル事業を令和3年度に実施しているほか、生徒数の減少に伴い、一部部活動が拠点校方式となっている。このため、美術部単体ではなく、町内全域での調整が必要であり、社会教育課を中心に、整理を進めている。
- ・当別町議会3月定例会代表質問において、教育長から部活動の地域移行については、町内アーティストの協力も得ながら、できるところから進めていきたいとの答弁もあったことから、引き続き、とうべつ学園、まちづくり会社と教育員会で連携を密にしながら、体制構築を目指す。

○令和4年度 取組状況等

参加者	人数等	美術部42名(なお常時参加は15名程度)
	学校名	当別町立とうべつ学園
	募集方法	美術部員に直接参加を呼びかけ。
指導者	人数等	4名
	募集方法	当別町内で活動するアーティスト2名、隣町の月形町で活動するアーティスト1名に加えて、当別町での活動経験がある町外アーティスト1組に依頼をした。
参加者の移動手段		学校内で実施したため、徒歩で参加した
活動費用	指導者謝金等	1時間5100円として支給した。町外アーティストは公共交通機関が少ないため、1kmあたり12.5円で交通費を支給した
	その他	
活動財源	会費	保護者負担について、本年度は求めなかった。 これは学校内で活動することとなったため、および、当別町は平均所得が低く、保護者負担を設けることで部活動すら参加できない生徒が生じる危険が大きいためである。
	その他	令和5年度については、まちづくり会社の自主財源で継続実施する。令和7年度を目途に、社会教育課で予算化するべく協議を続けている。 なお、当社の基本的な考え方として、家庭の経済状態によって部活動に参加できない状態を生じさせてはならないと考えている。
スケジュール	基本活動	おおむね2週間に1回程度
	年間	10月～2月に計22回実施した。
保険加入等		加入していない

【活動の様子（写真添付）】







地域文化倶楽部

美術部にアーティストがやってきた！

とらびっつ学園美術部

編カラーティスト
糸びと工房・久保奈月・小島柚穂・浜地彩

企画・運営
当別まちづくり株式会社



instagram

2023 2.25 sat 3.5 sun

ワークショップ開催

12・57302600501666

2/26 (水) 講師：浜地彩

コラーージュを作ろう

3/6 (水) 講師：小島柚穂

型染体験をしよう

旧・カネヨよねぐち呉服店 / 11:00-16:00

ふれあい倉庫 (月曜休館) / 9:00-15:00

当別郵便局 (土日祝休み) / 10:00-16:00

入場
無料

地域文化振興部は文化庁が推進する文化振興活動を地域に展開する取組事業です。本事業では、当別町内外で活動するアーティストを講師として招き、とらびっつ学園美術部にて講座を開催しました。本展では、作品と共に活動の様子を展示いたします。